

ちさとの風

千里山まちづくりニュース No.33

SENRIYAMA
千里山まちづくり協議会

心ふれあうまち、安全で住み良いまち、美しく楽しいまち、千里山をめざして

2019.11.10 【秋号】

1 佐井寺西土地区画整理事業が都市計画として事業決定 地区と吹田のまちづくりの今後は？

今年6月27日(木)に開催された吹田市都市計画審議会で、佐井寺西土地区画整理事業(以下「当該事業」といいます。)が都市計画として承認され、7月5日(金)に告示されました。市の資料によると当該事業区域は、佐井寺4丁目、千里山高塚・千里山松が丘の北端と千里山月が丘北東部、千里中央線東側の千里山西6丁目・千里山竹園2丁目に囲まれた面積約20.8haの起伏のある地形で、土地利用転換が予想される大学施設跡地や未開発の民有地等が存在し、また交差する未整備の都市計画道路(豊中岸部線と佐井寺片山高浜線)があるため、面的な基盤整備が求められる地区であるとし、良好な住環境の形成を図りながら都市計画道路の整備と合わせ、周辺の基盤整備を一体的に行うとしています。今回の都市計画決定に至る経過を振り返り、今後の当該事業をすすめる上での課題やまちづくりの方向について考えます。

【今回の都市計画決定に至るまでの経過はどうだったか】

今年4月18日(木)に開催された当該事業の都市計画案説明会は、市民全体を対象に開催され会場は満員に。午後7時からの説明会は30分余りの市の事業説明後、市民から次々と質疑や意見が続きます。勝手な見解で要約すると、地権者の方からは①当該事業による移転や建物損傷に対する補償の説明がなく不明確、②半世紀も前の都市計画決定道路を周辺の自然環境を破壊し大気汚染を深刻化させてまで整備しないで、③住居移転を迫られ地域コミュニティが損なわれるリスクを負う事業に約150億円もの税金はムダとの反対意見や、周辺住民や別の地権者の方から、当該地域には狭い道路もあり交通安全や利便性確保からアクセス道路を含む面的整備の必要性は理解する、市が議会や住民への民主的手続きに努めるなら協力するとの賛成意見も。市の担当者は、①国基準等に基づき適切な補償に努め、②残された自然環境や緑に配慮し環境影響を低減する手法で、③起伏に富んだ地形のもとで道路と沿線宅地との高低差を解消していく面的整備により、秩序ある良好な街づくり事業の実効性を担保するうえで地元負担軽減は必要と回答、8時半過ぎに閉会しました。

その後5月30日(木)から6月13日(木)までを当該事業の都市計画案決定に向けた縦覧期間とし、12名の方が縦覧し10通62件の意見書の提出があり、6月13日と15日(土)に当該事業に係る環境影響評価提案書についての意見交換会が開催、計100名以上の市民が参加しました。(縦覧期間中の意見書や意見交換会での市民の意見、市の回答・見解等は、市の都市計画室・環境政策室のホームページに公開されているため省略。)以上の手続を経て、冒頭にふれたように6月27日(木)の都市計画審議会で承認、告示されました。

【今後の当該事業の推進とまちづくりに求められることはなにか】

今後は、2020年秋の事業計画の認可をめざし2021年度中の工事着手と仮換地指定を予定し、2030年度に工事完了と換地処分、区画整理登記完了のスケジュールとなっています。全国的に少子高齢化で人口減少期にあるもと、この9月定例市議会で柿原市議の質問に市が回答しているように当該地区内の人口を1600人以上増加することを想定した事業とし、他にも円山町の日生不動産・野村不動産の400戸近い戸建開発や千里山団地後工区の関電不動産による500戸近い大型開発等の人口誘導政策が続くことで、本当に環境負荷を低減させるサステナブルな街づくりが可能か、若干の不安が残ります。今回2本の都市計画道路が千里中央線に接続され、交通量増加も懸念材料です。説明会では当該地区内の雨水は公園等に貯留池を配置すると回答されていますが、当該事業による開発で増加した戸数に関電不動産や野村不動産の開発による戸数が上乗せされると下流の上の川の千里山東貯留槽の許容能力や豊津付近の流量への影響が心配です。過度の人口集中を規制し十分な防災・減災対策と共に、小学校や保育園・幼稚園の過密化を避け、数少ない緑と自然環境の保全に配慮した、優しい街づくりと丁寧な住民説明が求められています。

近藤 均(千里山団地連絡協議会世話人)



佐井寺西土地区画整理事業



千里山松が丘から北側を望む正面の大阪学院大グラウンド奥の雑木林付近で2つの都市計画道路が交差予定

■ 防災講演会「千里山地域の防災とコミュニティ」

昨年は大阪北部地震、西日本豪雨、台風21号と自然災害が猛威を振るった年でした。これらの災害を受け、コミセンにおいて日本の都市防災の第一人者である河田先生による講演会が開かれ、大勢の方が参加されました。河田先生のお話を間違いを恐れずに要約すると、日ごろから備えていれば災害に襲われても早く復旧できるということでした。これを受ける形で、まち協では普段からどのように備えるかということを考えるため、まち協発足15周年記念事業として、今年6月1日に千里山自治会の後援のもとコミセンにて防災講演会を開催しました。講師には長年防災について研究されてきた元神戸大学の河田先生をお招きし、「防災の仕組みを学ぼう」という題のもとご講演頂きました。参加者は40代から70代までの方34名でした。

- 先生の話の中で印象深かったのは以下のことでした
- ・ 発災後の被災者支援について、食料・水・寝るところといったモノの確保だけでなく、モノと人との関係性の中に支援の本質があること
 - ・ 被害を小さく抑えるのは普段の防災教育、災害に対する備えを自分のこととして捉えることが重要であること
 - ・ 災害自体もさることながら避難所で亡くなる方が多いことから、災害対策基本法に定める避難者の心身の健康、要支援者への配慮、情報の提供等、避難生活を支える仕組みづくりを自治会や地域コミュニティと連携して創り上げていくことが大きな課題であること

特に地域コミュニティとしては高齢者や障害者、乳幼児といった要支援者の避難計画づくりで、個人情報という観点から要支援者名簿の情報管理の在り方、それをもとにした具体的な対策が課題になってくることも指摘されました。普段から避難所がどこにあるのかを確認しておくことが重要であることは言わずもがなですが、いざ避難してからの避難所内のルール、例えば避難所の鍵は誰が持っているのか、飲酒・喫煙をどう扱うのか、ルールを守らない人をどうするのかといったことまで、地域で前もってルールを作っておくことが重要であるとの指摘も受けました。

質疑応答では避難所は救済を求めてきた人はすべて受け入れること、発災後、まずすべきことは家族の安否確認、その次はご近所の方の安否確認であり、そのために日ごろからご近所にどういった方が住んでおられるかを知っておくことが重要であること、地域の自主防災組織で要支援者名簿を作成しているが福祉委員会にしか渡っておらず実際に支援する自治会等に情報が流れていないこと、こういった事態に対処するため、要支援者名簿等の情報を地域包括支援センターやケアマネージャーと共有し、日ごろから対策を講じておくことが必要であること等の議論がありました。

来場者の方にアンケートに協力して頂いたところ、講演会については「大変良かった」、「よかった」とした方は合わせて77%となり概ね好評でした。(回答者数;31名)

については、まち協では防災講演会Ⅱを開催することを計画しております。内容はアンケートでも多くの希望があった地域コミュニティとして巨大災害に具体的にどう備えればいいのか、ということ今年最大の台風からの最新の知見も交えながら、再び大西先生にご登壇いただき千里山の防災について皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

千里山まちづくり協議会 高津章雄



告知パンフレット



講演会(コミュニティセンター)

■ 地域安心安全への願い

『千里山コミセンだより』51号より

令和元年六月十六日朝五時三十六分頃、「千里山交番襲撃事件」が発生しました。

穏やかで住み良いまち千里山の安心安全と、重傷を負われた古瀬鈴之佑巡査の早期回復を願って、千里山地域の子ども達が総数二万三千羽にも及ぶ千羽鶴を贈りました。

また千里山駅東改札口前には七夕飾りを設置して、ご通行の皆様呼びかけたところ、総数四百四十枚の短冊に、「早く元気になって下さい。」などと激励の言葉をいただきました。

事件から約一ヶ月を経た七月十九日夕方の報道番組で、これらの地域の取り組みが紹介され、尾木ママさん(教育評論家)からは「みんな心が繋がって、素敵地域だと想います。」とのコメントをいただきました。重傷だった古瀬さんも順調に回復していると報道で知り、ほっと一息つくことができました。(T)



折り鶴贈呈



グループいっせき

■ 第13回上方落語会「ちさと亭」

9月15日、日曜日千里寺にて、秋晴れの下、恒例の第13回上方落語会「ちさと亭」を開催いたしました。

昨年は台風影響で安全の為、やむなく開催を中止いたしました。楽しみにして頂いていたお客様や準備をお手伝い頂いた皆様には大変ご迷惑をおかけ致しました。

この「ちさと亭」は、千里山まちづくり協議会が長年に渡り開催していた行事を、千里山商栄会が千里山まちづくり協議会の企画協力を頂き、千里寺様や多くのサポートのもと開催しております。

本年は近隣の大型マンションの掲示板にポスターを掲示頂いたり、宣伝方法を広げた結果、新しいお客様が増え、おかげで新鮮な笑いに溢れた一日となりました。

今回もお帰りの際、千里山商栄会々員のお店で使用出来る金券を入場者全員にプレゼンもあり、最初から最後まで喜んでいただけた催しとなりました。千里山商栄会 上田陽一



告知パンフレット

■ 「〇っと千里山 秋まつり」の開催

標記の第5回秋まつりが10月20日(日)千里寺を会場に、「〇っと千里山」の主催で秋空のもと賑々しく開催されました。

出展はフリーマーケット、フードコーナーなど20団体で、消防自動車の登場・子供達の体験会、新たに国境なき紙芝居団の出演の他フィナーレには関大生の勇壮な漢舞も踊られました。

当まち協は、16年間の活動状況、「ちさとの今昔」等の展示を通して、ご観覧の方々とふるさと千里の歩みを共有し合う貴重な時間を持ち得ました。主催者、ご協力関係各位のご配慮に深謝申し上げます。中野直衛



千里寺境内の賑わい

■ 千里山の景観の変化と住民のまちづくり活動について

千里山西住宅は開発から100年を迎える。同時代に開発された郊外住宅地、池田室町や浜甲子園などと共に第3世代を迎えた現在、開発理念がどう継承され、住環境が保全されているかを研究テーマとしました。

研究の一部を発表させていただきます。千里山住宅地の計画理念の資料整理の結果、豊かな緑が景観要素として重要であるとわかりました。

また開発当初は自家用車が普及していなかったことから、近年の車庫設置により街路樹の伐採や生垣の減少など、景観に及ぼす影響は大きいと考えています。

そこで車庫と植栽の現状について調査しました。

車庫は前面道路からの自動車の見え方により、オープン(柵、塀無し)、セミクローズ(透過性のある柵)、クローズ(透過性のないシャッター)に分類しました。

結果として、オープンの植栽ありの割合が高く、景観上自動車が丸見えかもしれないが、植栽がなされる可能性が高まるとメリットがあるとわかりました。

大阪大学大学院工学研究科 土井海志



オープン



セミクローズ



クローズ



千里山まちづくり協議会9月定例会での発表

【新しいまちなみを形成する車庫】

自動車をも所有しなくなったときを考え、車庫の活用の提案



植栽ありの例



車庫を道に面した新しい1部屋と考えることで、趣味を共有したり、まちの居場所となる。



車庫が並ぶことで形成される新しいまちなみ

■ 吉野彰さんがノーベル化学賞に輝きました!

10月9日の夜に嬉しいニュースが飛び込んできました。吹田市出身で、千里第二小学校(昭和35年卒)、吹田第一中学校(昭和38年卒)の卒業生である、吉野彰さん(71才・旭化成名誉フェロー、名城大学大学院教授)が、今年のノーベル化学賞を受賞しました。誠に御目出度うございます。

受賞理由はリチウムイオン電池の発明に対して、現代社会に多大な貢献をされたことが高く評されました。特にノートパソコンからスマートフォンなどのIT機器、電気自動車や新型新幹線車両などのモバイル関連、また再生可能エネルギーの安定利用による、スマートシティといった未来社会の実現にも、リチウムイオン電池はキーとなる重要な技術とされています。

尚、産業界の研究者としての受賞も、これからの日本科学の基礎研究の在り方に明るい示唆を与えます。インタビューで子供の頃に影響を受けた本として、ファラデーの『ロウソクの科学』を挙げておられましたが、千里山の子供たちにも大きな希望と好奇心の大切さを感じさせてくれました。(編集部)



■ 千三小の課外講座土曜ぐうちよきばあ理科実験教室千里山と共に 千里山西 金谷俊秀

千里第三小学校では、「土曜ぐうちよきばあ」という講座が開かれています。昔は学校は「半ドン」と称して土曜日は午前中だけ授業が行われていたのですが、1995年頃に第二、第四土曜日が休業日になり、2002年には完全な週5日制になりました。それは時代の流れで、現在では官公庁や多くの企業も週5日制が普通になっています。しかし、当初は大手企業から導入が始まり官公庁にも導入されたものの、まだまだ土曜日も就業日という事業所が少なくありませんでした。そうすると、保護者は仕事で留守なのに、子どもは学校に休みで一人家に残ることになりかねません。

そのようななかで当時の千三小PTAの方々が、土曜日に子どもたちが行く場所をつくらうと、教室や校庭を借りて始めたのが土曜ぐうちよきばあです。この講座では地域の有志の皆さんが講師となって、子どもたちにさまざまな体験を提供しています。子供たちは、ソフトベースやラグビーといったスポーツで思い切り体を動かして汗を流したり、ものづくり探検隊や料理教室、囲碁などで暮らしの潤いを得たりと、学校の正規のカリキュラムにはない幅広い分野のコースから一年間の講座を選びます。私たちが運営している「理科実験教室」もその一つです。

理科実験教室では、その名の通り理科の実験をするのですが、学校の理科とはずいぶん違ったもので、身の回りの自然や生活に根ざしたいろいろな自然現象を「科学する」ということを楽しみます。近年の科学技術の発展には目覚ましいものがあり、これらの成果も身近に溢れています。しかし、その一方で子どもの「理科離れ」などという声も聞かれます。それにはいろいろな社会背景があるのですが、一つには科学技術が進歩しすぎて空気のようなものになり、逆によく見えなくなってしまうということも関係しているかもしれません。身の回りのごく「当たり前」の事象の中にも一つ一つその裏付けとなる自然科学の法則が存在していることや、なにか「不思議」に感じることに科学的根拠があること、そうした身近な物事の中の科学に気づき、これを探究しようというのが理科実験教室の目標です。

たとえば水や空気あるいは食品や日用品など、身近な素材を「科学の目」で多面的に調べたり深く掘り下げたりすると、それぞれ大変興味深いことがわかってきます。この物事を見る目を養っていきたくて考えています。実験内容は小学校ばかりではなく中学校・高校、あるいは大学の専門教育で取り扱うようなものも取り入れています。ただし、家に帰って自分でさらに深く調べたり試したりできるように、実験器具はできるだけ専用の特殊なものではなく、どの家庭にもある道具などを使うよう工夫しています。そして、身の回りの事象の中から法則性を発見し、その背景となることについて自分で仮説を立て、その検証の方法を考察するという方向を目指します。そのなかで、子どもたちが科学的な視野や方法論を少しでも身につけていくことが私たちの願いです。

最近では週5日制がかなり普及してきました。そこで、理科実験教室も土曜日の子どもの居場所というよりは、保護者の皆さんにもできるだけ参加していただき、親子で楽しめる講座にしていこうと思っています。土曜の午前中、親子一緒に自然科学に触れ親しみ、科学の実験や探究を楽しむ機会となれば幸いです。



理科実験教室風景



投稿歓迎! ご意見や千里山ニュースなどへの情報をお寄せ下さい。ブログ「ちさとの風」へのコメントやトラックバックもよろしくお願ひします。千里山まちづくり協議会では会員を常時募集しています!(年会費:1000円)以上、当協議会また開催イベントなど、お問い合わせやご参加の際には、お気軽に下記事務局までご連絡下さい。
発行: 千里山まちづくり協議会 会長: 筒井一光 事務局長: 松岡要三 編集: 中野直衛・小島功
事務局: 〒565-0851 吹田市千里山西5丁目11-19 千里山会館内 TEL: 06-6384-0603
(年会費などの振込み口座番号: 00990-7-278514 口座名称: 千里山まちづくり協議会)
ブログ: ちさとの風 <http://blog.goo.ne.jp/chisato-wind> (右のQRコードでアクセス)

